

Title	癌と人 第38号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 38
Issue Date	2011-05
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/21452
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

◎ 題 字 ◎

公益財団法人 大阪癌研究会
元理事長 千代賢治



*表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願
いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の
図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代に
さかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著
述のところどころに、今日私どもがいう癌と
思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを
「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスと
いうのは日常一般に用いられていた言葉で、
蟹のことである。ヒポクラテスが記述してい
るという病気（癌）の格好が蟹に似ていたの
でそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノー
マと呼んでいる。それはカルキノスという言
葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日
常語を純然たる医学語とした人である。癌と
蟹の関係はそれ以来続いている。

- ・ごあいさつ 1
田口 鐵 男
- ・「禁煙の日」に想う 2
田口 鐵 男
- ・肝がん予防のためのウイルス肝炎の
最新治療 6
林 紀 夫
- ・ピロリ菌 8
岩 永 剛
- ・関西がんチーム医療研究会の歩み 19
古 河 洋
- ・ピロリ菌と胃癌と検診と 24
阪 本 康 夫
- ・がんの地域連携クリティカルパス 30
下 村 淳
- ・TAP 遺伝子欠損樹状細胞を用いて
非自己 MHC-腫瘍抗原複合体を特異的に
認識する細胞傷害性 T 細胞を効率よく
誘導する方法の開発 34
植 村 靖 史
- ・成人 T 細胞白血病 (ATL) における病型
および病期進展を規定するメチル化遺伝子
の網羅的解析 35
大 畑 雅 典
- ・MRI 特異的 reporter gene を用いた
単一細胞 MR 画像追跡による
Glioblastoma 脳内浸潤過程の解明 37
木 下 学
- ・in vivo イメージングを可能にする
悪性上皮腫モデルマウスの作製と、
腫瘍融解アデノウイルス開発への応用 38
久 保 秀 司
- ・転写因子 GATA1 の機能破綻に起因する
急性巨核芽球性白血病発症メカニズムの
解析 40
清 水 律 子
- ・CXCR4 に関連する CML 前駆細胞の
骨髄遊走、定着機構の解明と
その治療的応用 42
田 部 陽 子
- ・卵巣癌の染色体不安定性発生の
新機構解明の試み 44
中 山 健 太 郎
- ・低酸素応答シグナル伝達の制御による癌の
増殖と転移の同時抑制 46
中 山 恒
- ・配列特異的酵素活性相補法による癌の
新規治療法の開発 48
藤 井 穂 高
- ・悪性リンパ腫により見出された新規がん
抑制遺伝子 TFL 50
皆 川 健 太 郎
- ・食道癌化学療法耐性における骨髄由来細胞
の機能解明とそれを標的とした治療開発 51
宮 田 博 志
- ・遺伝性多発性外骨腫モデルマウスを用いた
腫瘍形成における分子機序の解明 53
吉 田 千 春
- ・平成 21 年度事業報告 55
- ・平成 21 年度収支計算書等 58
- ・平成 22 年度寄付者ご芳名 64
- ・平成 23 年度事業計画書 66
- ・平成 23 年度収支予算書 67
- ・公益財団法人大阪癌研究会役員名簿 68
- ・公益財団法人大阪癌研究会定款 69